

CONTENTS

文化人の本音 河合隼雄文化庁長官対談 第50回 ゲスト 伊藤京子さん ● 声楽家
歌でつながる人と心 4
長官コラム 文化庁の抜穴 9

| | |
|--------------------------------|----|
| いぎいきミュージアム 美術館・博物館事業レポート 50 | |
| 徳島県立博物館 | 22 |
| 芸術文化の風 14 | |
| オーケストラと指揮者(小倉信宏) | 23 |
| 著作権Q&A 『著作権なるほど質問箱』から 14 | |
| 登録の種類と効果, 手続き | 24 |
| 言葉と暮らし 2 | |
| 「外来語」言い換え提案 | 25 |
| 伝建地区を見守る人々 伝建歳時記 26 | |
| 先人が残してくれた「塩田津らしさ」(佐賀県壺野市塩田町) | 26 |
| くらしが育む文化的景観 2 | |
| 台地とため池にいぎる(兵庫県稲美町) | 28 |
| 関西発。広げよう「文化力」の輪! 2 | |
| 文化の力で関西から日本を元気に! | 30 |
| 風を呼ぼう、わが町に 登録有形文化財建造物との歩み 26 | |
| 地域活力を呼び覚ます 鹿児島県の登録文化財めぐり | 31 |
| 地域からの「文化力」発信 14 | |
| 文化芸術による創造のまち支援事業 | 32 |
| 日本の伝統美と技を守る人々 選定保存技術保持者編 46 | |
| 佐々木信平(石盤筆) | 34 |
| 国宝・重要文化財をもっと楽しむ方法 文化財鑑賞の手引き 38 | |
| 染織品のみかた | 35 |
| 祭り歳時記 伝承を支える人々 2 | |
| 日立風流物(茨城県日立市) | 36 |
| 文化交流使の活動報告 23 | |
| ローマ国立大学講談研究会(神田山陽・講師) | 37 |
| 「第3回文化庁文化交流使活動報告会」開催 | 38 |
| キトラ古墳壁画「白虎」の特別公開 | 39 |
| 新プロジェクト「九州・沖縄から文化力」(仮称)構想を発表! | 40 |
| 東京国立近代美術館 | |
| 所蔵作品展 近代工芸の百年 | |
| 特集展示 ルーシー・リーとハンス・コパー 英国の工芸 | 41 |
| 東京国立近代美術館 フィルムセンター | |
| 生誕100周年記念 美術監督 水谷浩の仕事 | 42 |
| 京都国立近代美術館 | |
| 生誕120年 藤田嗣治展 | 43 |
| 国立西洋美術館 | |
| 版画作品展 芸術家とアトリエ | 44 |

連載

文化庁ニュース

イベント案内

| | |
|---------------------------------|----|
| 有識者提言 | |
| 独立行政法人国立美術館の五年間と今後の課題 | 10 |
| 寄稿 | |
| 独立行政法人化前後 | 12 |
| 事例紹介 | |
| 開かれた美術館を目指して | 14 |
| 開かれた美術館へ | 15 |
| 国立西洋美術館の歩み | 16 |
| 国立国際美術館の再出発 | 16 |
| 国立新美術館の開設に向けて | 18 |
| 施策紹介 | |
| 独立行政法人国立美術館の五年間の評価と次期中期目標期間に向けて | 20 |
| 美術学芸課美術館・歴史博物館室 | |
| 東京国立近代美術館 | |
| 京都国立近代美術館 | |
| 国立西洋美術館 | |
| 国立国際美術館 | |
| 国立新美術館 | |
| 陰里鉄郎 | |

特集 独立行政法人国立美術館の歩み

| | |
|-------|---|
| 今月の表紙 | 国立新美術館外観〈右〉 小・中学生向けギャラリートーク「こども美術館」 (東京国立近代美術館) |
|-------|---|

| | |
|--------------|----|
| 新国立劇場スポットライト | 45 |
| 6月の国立劇場 | 46 |
| 芸術文化振興基金ニュース | 47 |
| 題字デザイン 桑山弥三郎 | |

独立行政法人化前後

女子美術大学教授
陰里鉄郎



自身の個人的な回想を交えながら国立美術館の独立行政法人化前後のことを記してみたい。

四つの国立美術館（東京国立近代美術館、京都国立近代美術館、国立西洋美術館、国立国際美術館）が独立行政法人となったのは平成一三年四月であったろうか。その少し前の二月下旬に東京国立近代美術館としての最後の評議員会が開かれたのを覚えている。その直後に四館構成の独立行政法人国立美術館となった。そして各館の運営委員会などは廃止され、新たに法人の運営委員会と外部評価委員会が設置された。私もなぜかそのまま外部評価委員会委員を命じられて現在に至っている。こうした変化の中で最大の問

題はこの法人が達成すべき業務運営に関する目標を三年から五年の期間で達成するものとして掲げ（中期目標）、これを公表するという取り決めであった。その第一期が本年（平成一八年）三月で終わった。

こうした変化の理念は、平たく言えば「開かれた美術館」という志向であるようだ。内部の関係者と話していても、従来、いわば独善的といってもいい「美術館を観たい人は来ればいい」といった態度ではなく「多くの公衆に文化的なサービスを提供したい」という積極的な姿勢が以前よりも強く感じられることである。独善的といったが以前だと、館側は「より多くの人に観てもらいたい」という意

向がなかったわけではないし、そのため努力もなされてはいたが、法人化以降は入館者数や展開した事業に関しての外部からの評価によって次年度の活動がある程度規制されるといったことも出てくる可能性が強くなってきているのであろう。

手もとに送られてきた各館の平成一六年度の実績報告を繰っているといういろいろな問題が浮かんでくる。独立行政法人として一本化されたとはいえ四つの館はそれぞれ創設以来蓄積してきた活動の成果として、各館が独立性をもち特色をもっている。社会の多様化とそのニーズを踏まえつつ、また状況の変化に対応して多彩な活動を展開してきている。それらを生かしながら今後の展開が期待されるわ

けである。

整備されてきた点を挙げれば、各館の所蔵作品の記録カードの作成が完了し四館共通の作品目録検索システムが構築された。また多少遅れていた二四時間の空調も実施されるに至っている。作品に関していえば修理を必要とする緊急のものはほとんど終わったと報告されたが、外部に貸出する場合に危惧されるものが若干ある程度までになっているとのこと

ある。ただ問題としては、作品管理保存に関する専門職員・レジストラの必要が指摘される。

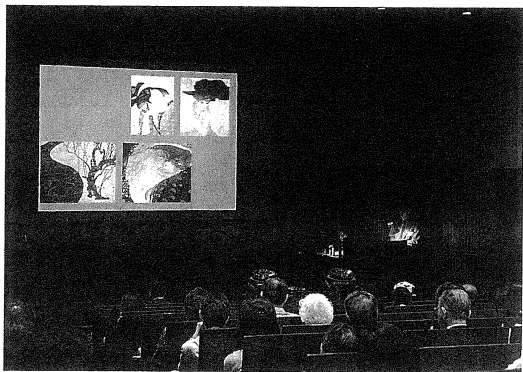
展示活動については、コレクションを生かして編年的な展示の随所に特集展示を織り交ぜてメリハリのある展示を試み、これは観客を十分に喜ばせているといえるようか。これはかつての「流れ展」と多少抑揚気味と呼ばれていたころに比すれば、正統を継続しながら、同時に厚味を加えてきたように思われる。また、「常設展」という呼称についてもほかの何か魅力的な呼び方への変更が論じられ、「コレクション・ギャラリー」といった名称が提示されたりした。

企画展に関しては、新しい試みに関して評価がなされた。例えば『琳派展』以前から現代の立場から見直し、かつ再評価しようという試みは単発的になされたきたが、今回の『琳派展』は単に宗達・光琳とその流派の作品だけではなく、海外の作品も含めて現在にまで視野を広げた壮大ともいってもいいほどの試みであり、また展示もよく工夫されていて見ごたえのある展覧会であった。それだけ

に琳派展カタログの売行きは予想を超えたものとなり売切れとなってしまったという。

古美術と同時に、というより、より以上にこの館が取り組まねばならないのが内外の現代美術である。『ブラジル・ボディ・ノスタルジア』『痕跡』など、興味深い展観であった。前者はこれまであまり紹介されたことのないものであり、後者は問題を提起したいという意図が十分にうかがえるものであった。

現代美術、なかでも彫刻、工芸の分野はいつも美術館としては苦戦する試みである。日本の戦後の抽象彫刻の代表、『堀内正和の世界展』は内容のおもしろさにもかかわらず入館者は目標を下回ったという。『八木一夫展』や『剣持勇とその世界展』といった日本国内だけでなく国際的にも知られ、また現代造形として広く評価されるこれらの作家の作品が一般的に知名度がさほど高くないせいか残念ながら入館者数はあまり伸びていない。そのほか記したいことは多々あるが、最後に琳派展に関連して国際シンポジウムが開催されたことを付記しておきたい。



国際シンポジウム「琳派—RIMPA」

◆長官対談
【文化人の本音】河合雄雄文化庁長官対談
中島信也 東北新社取締役、CMディレクター
【長官コラム文化庁の振興】

◆特集◆
NPOと文化財 活かして高める文化力

【文化庁提言】
NPOと文化財、活かして高める文化力
【解説】
文化財建造物の活用推進に向けた新たな施策
【論説】
地域に開かれた文化財
—新たな所有概念の創設を市民団体に期待する
市民による保存活動の進展
—多彩な保存技術・活用技術をもたらそう
文化財建造物の様々な社会的効果をひきたすNPO

◆文化庁ニュース◆
平成一七年度第一八回文化庁舞台芸術創作奨励賞決定
平成一七年度(第五六回)芸術選奨 ほか

編集後記

国立美術館が法人化して丸五年、さまざまな取組を行っています。五年という限られた期間の中で、目標に向かって計画を遂行し評価を受けてきました。当初描いていた独立行政法人というイメージとは、ほど近い感もありますが、「よく変わりつつある……」という評価を受けながら、また新たな中期目標期間に突入したところであります。我が国の美術館の歴史はヨーロッパ

◆連載◆

【いきいきミュージアム 美術館・博物館事業レポート】
横浜市の歴史博物館
【芸術文化の風】
アニメーション映画の展開
【著作権Q&A】著作権なるほど質問箱から
外国との関係
【言葉と暮らし】
世界の言語テスト
【伝達地区を見守る人々 伝達地誌記】
伝統的建造物群保存地区を見つめる住民のまなざし
くらしが育む文化的景観
海と山とを耕してきた浦 宇和島市遊子水宿浦
【関西発 広げよう「文化力」の輪！】
壁を無くそう！ ビジネス街と文化との新しい関係
【地域を呼ぼう、わが町に 登録有形文化財建造物の歩み】
地域の新たな活力源 伊勢の登録文化財めぐり
【地域からの「文化力」発信】
学校への芸術家等派遣事業
上田 尚、金鹿紙製作
【国宝・重要文化財をもっと楽しむ方法】
奈良朝写経
【祭り感時記 伝承を支える人々】
因幡の善浦綱引き—子ども組による伝承行事
【文化庁の星】
文化財鑑査官

に比べて、日は浅く、明治初年から同時代の美術を恒常的に展示する施設の要望はあったのですが、昭和二十七年まで国立の施設は実現しませんでした。そんな中で今年度中には、五番目の国立美術館として「国立新美術館」が開館予定です。我が国の美術振興の拠点として、ますます期待を受けながら、美術館活動を行っていききたいと思います。(丸)

文化庁月報 5月号 (通巻452)

平成18年5月25日印刷・発行

編集—文化庁

〒100-8959 東京都千代田区丸の内2-5-1

発行—株式会社 きょうせい

本社 〒104-0061 東京都中央区銀座7-4-12
本部 〒167-8088 東京都杉並区荻窪4-30-16
電話 編集 03 (3571) 2126
販売 03 (5349) 6666
URL : http://www.gyousei.co.jp

印刷所—ぎょうせいデジタル株式会社

●本誌の掲載のうち、意見にわたる部分については、筆者個人の見解であることをお断りいたします。

定価540円 [本体514円] 送料76円
年間購読料6,480円
本誌のご購読のお申し込みは、直接弊社の本・支社、あるいは最寄りの書店へお申し込みください。

広告の問い合わせ・申し込み先
(株) ぎょうせい営業部広告課
電話03 (5349) 6657 (ダイヤルイン)
©2006 Printed in Japan ISSN 0916-9849

本誌は本文に再生紙・大豆油インキを使用しております。

美術館・博物館チケットプレゼント
今月号の展覧会等のチケットプレゼントは、
A 京都国立近代美術館
「藤田嗣治展」6組 (ペア)
です。ご希望の方はアンケートハガキのチケット応募欄に必要事項をご記入のうえ、5月31日(水)までにご投函ください(当日消印有効)。
*チケット発送をもって当選発表にかえさせていただきます。

文化庁では、ホームページで、文化庁に関する情報を幅広く提供しています。ご意見、文化庁月報の感想などを、ホームページのご意見欄へお寄せください。

●ホームページアドレス●
http://www.bunka.go.jp